

東京都写真美術館(1)

事業名	会期	概要
「白川義員写真展」	2021年2月27日 ～5月9日	“地球再発見による人間性回復へ”を基本理念として、1969年の『アルプス』から10にものぼるシリーズ作品を発表してきた 白川義員(1935-) の個展。二期構成で、シリーズ第11作目「永遠の日本」と、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」を紹介しします。写真家生活50年以上にわたり白川が撮り続けてきた国内外における選りすぐりのダイナミックな風景美を、最新のデジタル技術によるかつてないスケールと臨場感で再現しします。
「澤田知子 狐の嫁いり」	2021年3月2日 ～5月9日	2000年に作品《ID400》で キヤノン写真新世紀特別賞 を受賞以降、国内外で高く評価される 澤田知子の個展 。澤田は セルフポートレイトの手法を軸に、自ら「シャッターを押すことのない写真家」として 、一貫して制作をおこなってきました。新作を初公開するほか、鮮烈なデビュー作や代表作から、「内面」と「外見」の違いに疑問を持ちながら制作を続ける、澤田の歩みに焦点を当てます。
「新・晴れた日 篠山紀信(第一部)」	2021年5月18日 ～8月15日	時代のエネルギーをとらえた写真によって、雑誌をはじめとする出版文化の隆盛を代表する存在として活躍する 篠山紀信(1940-) の個展。長嶋茂雄や輪島功一、堀江謙一など、誰もが知るアイコンをちりばめながら、 尖鋭な昭和の時代批評ともなっていた1974年の連作『晴れた日』のコンセプト を使って、60年間の仕事を振り返ります。第一部では写真界で注目を集めた 1960年代の初期からその後の幅広い活躍の原点となる70年代までの主要作品 を紹介しします。
「新・晴れた日 篠山紀信(第二部)」	2021年5月18日 ～8月15日	第二部では 1990年代の作品から近作まで を紹介しします。バブル経済を迎える1980年代から2011年の東日本大震災を経て現在まで、 創造と破壊、欲望と不安が相即不離な変化の時代 をどのようにとらえてきたのか、ポートレイトからドキュメンタリーまで、幅広いジャンルの作品から紹介しします。
「山城知佳子」	2021年8月17日 ～10月10日	2000年代から、映像・写真を主たるメディアとして、精力的に作家活動を進めてきた 山城知佳子(1976-) の個展。収蔵作品を中心に、最新作とともに総覧しします。初期から最新作に至る系譜を、「私というメディア」「風景の擬人化」「穴の連なり」といった主題やモチーフの関連性をもとに再配置する展示を回遊することで、 あたかも総合的な一つの作品を観るように 、山城知佳子の作品世界を体感しします。
「宮崎学」	2021年8月24日 ～10月31日	中央アルプスのふところ、動植物に恵まれた環境を活かして 野生動物を撮り続けてきた宮崎学(1949-) の個展。自然界の仕組みや野生動物の世界を写真と映像でわかりやすく紹介しながら、「けもの道の四季」「フクロウ」「死」「アニマル黙示録」など 自然と人間をテーマに、社会的視点に立った「自然界の報道写真家」として 日本写真史に一時代を築いてきた宮崎の全容を明らかにしします。

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3

電話 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033

<https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。(最新情報は公式サイトでご確認ください)

東京都写真美術館(2)

事業名	会期	概要
「リバーシブルな未来」	2021年8月24日 ～10月31日	日本とオーストラリアの現代作家を紹介する国際展。両国は歴史的背景やその文化において大きく異なります。しかしながら、現代における想像を超える出来事や社会の動きは、異なる両国においても、新たな経験となり、 その問題意識の多くは共有されつつあります 。日本とオーストラリアそれぞれの作家の表現を通じて、過去と未来、経験と未知、記憶と忘却のサイクルについて、現代の新たな視座を提示します。
「日本の新進作家 vol.18」	2021年11月6日 ～2022年1月23日	日本の新進気鋭の作家を発掘、紹介するグループ展。 18回目 となる本展では「 土地の記憶 」をテーマとして、新進作家たちが人々と土地をめぐる多様なアプローチによって表現した作品を提示します。「土地」にまつわる自然、社会、伝統等と、 これらと人の関わり について、作品とともに考察します。
「松江泰治」	2021年11月9日 ～2022年1月23日	東京国立近代美術館やサンフランシスコ近代美術館など、国内外美術館に作品が収蔵されるなど、 国際的に高い評価を得ている写真家、松江泰治(1963-)の個展 。完全な順光から撮影することで、 影のない独特な奥行き感を持つ画面を作り出す 松江の、 30年以上に及ぶキャリア を振り返り、作品の魅力を探ります。これまでまとめて展示したことがなかった 〈makieta〉シリーズの新作 を展示することで、作家の現在も示します。
「第14回恵比寿映像祭」 【アートカウンシル東京事業】	2022年2月4日～20日	恵比寿映像祭は、2008年度(2009年2月)より毎年開催される アートと映像のフェスティバル で、今回 14回目 を迎えます。東京都写真美術館の全フロア、恵比寿ガーデンプレイスおよび地域に広がるギャラリーなどの文化施設と連携し、恵比寿を起点に広域的に展開します。 映画、アニメーション、実験映像、ドキュメンタリー、現代美術、テクノロジー映像など 、多様なジャンルの映像芸術表現が一堂に揃います。
「TOPコレクション 光のメディア」	2022年3月2日 ～5月8日	東京都写真美術館コレクションの中から、 珠玉の名作 を紹介する展覧会。 写真作品における「光」のとらえ方 をテーマに、写真の歴史を紐解きながら、写真技法やセオリーに注目し、多様な表現を紹介します。
「写真発祥地の原風景 はこだて」	2022年3月2日 ～5月8日	写真発祥地である「はこだて」 を、幕末の箱館期から明治の函館に至る 初期写真を核として通覧 する展覧会。江戸幕府の直轄地であり、松前藩と共に交易で栄えた箱館に 写真技術が伝播すると、多くの国内外写真家が、アイヌ文化を含め、西洋近代化する街や人々を撮影 しました。 初期写真とともに当時の貴重な器材や資料をダイナミックに展示 し、幕末明治のはこだての再構築を試みます。

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3

電話 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033

<https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。(最新情報は公式サイトでご確認ください)